

到着し、これを荷受人に引渡す場合は、新聞紙雑誌引渡書を使用し、一般の小荷物と異なる簡便な引渡方法をとっている。すなわち特別扱新聞紙・同雑誌については荷受人が固定しているばかりでなく、ひん繁に到着荷物があるので、特別扱新聞紙・同雑誌が到着したときは、着駅係員が正確に計量し、つぎの様式の新新聞紙雑誌引渡書の所定らんに要項を記入のうえ、受領印らんにあらかじめ届け出てある印章と同一の印章により受領印を受けて引渡すのである。

新聞紙雑誌引渡書						
発 駅		昭和 年 月 分				
荷送人						
到 着	託 送	個 数	実重量 (kg)	受領印	記 事	
日 付	日 付					
荷受人		駅				

(金田政吉)

しんぶんしたくそうしょ 新聞紙託送書 鉄道が特別扱運送の承諾をした新聞紙の荷送人が新聞紙を託送する場合に託送駅に提出する物品託送の証票書。

小荷物を受託したときは、鉄道は小荷物切符を発行し、荷送人に交付するのを原則とするが、新聞紙は性質上一時に多量のもの列車の出発間際に託送することが多く、かつ迅速輸送を必要とするので、とくに受託事務の簡素化を図る必要があり、例外として小荷物切符の発行にかえ、荷送人から本書を提出する制度になっている。本書は荷送人において作成し、新聞紙託送のつど託送の列車・自動車または汽船が発送する2時間前までに託送駅に提出するのがたてまえであるが、新聞紙の託送部数およびページ数が同じである等の事由で、鉄道管理局長がとくに承認したときは、本書の提出を月1回に省略し得る。

本書の様式は甲・乙・丙の3片制で、記入事項は荷送人氏名または商号・発着駅名・発送月日・列車番号・荷受人・個数・重量等である。甲片は荷送人が保存、乙・丙片は駅に提出、駅は相当運賃を記入のうえ、乙片は保存、丙片は所管審査課に提出し、荷送人に対する当該後払運賃の徴収その他の資料に供される。(伊藤 孝)

しんみなとせん 新湊線 氷見線能町駅から新湊駅に至る3.6kmの線。北陸線に属する貨物線で、線路等級は丙線である。

大正7年中越鉄道株式会社によって建設されたが、大正9・9政府に買収され新湊線と改められ、その後富山地方鉄道株式会社がこれに平行して新線建設をしたので、昭和26・4旅客運輸を廃止し、貨物運輸のみを行う線となった。(森 梯寿)

しんめいせん 深名線 函館本線深川駅から石狩川の東側を北進し、宗谷本線名寄駅に至る121.8kmの線。函館線に属し、その線路等級は丙線。

この線は深川および名寄の両方面から建設し、深川方からは通過地の雨龍郡にちなんで雨龍線として大正13・10深川・多度志間、同15・11多度志・鷹泊間、昭和4・11鷹泊・幌加内間、同6・9幌加内・添牛内間を開業し、同年10月雨龍線を幌加内線と改称、昭和7・10朱鞠内まで開通した。名寄方からは名雨線として昭和12・11名寄・天塩弥生間を開業したが、昭和16・10朱鞠内・天塩弥生間が全通したので、幌加内線および名雨線の名称を廃止し、両端地深川・名寄の頭文字をとって、深名線と呼称することとした。(森 梯寿)

しんやかんでんりょく 深夜間電力 水力発電所の供給しうる電力量は、その発電所が取水している河川の自然流量によって決定される。自然流量は1日のうち、あまり大きな変動がないから、発電所は大体一定の動力を発生することが可能である。しかし電力を使う方の側では、1日中一定の大きさの電力を使っているわけではない。すなわち昼間は工場等の産業活動が盛んになるため、また夕方は電灯照明のため、電力の使用量が大きくなる。これに反して深夜間は産業活動も少なく、電灯使用もあまりないから、電力の使用量は当然少なくなる。したがって発電所としては昼間に大きな電力を発生する必要があり、深夜間はその必要がなくなる。このため発電所では一定量で流れてくる水を、需用の少ない深夜間にためて昼間に使用するために調整池の設備をもつものもある。しかしある限度以上は水をためることができなくなり、水を無だに流してしまうことになる。

また、調整池の設備のない発電所では、深夜間に流れてくる水を発電に利用することなく、無だに流すことがいっそう多い。このため深夜間に電力の需用があれば、エネルギーの無だな損失を防ぐことができ、これは国家としても電力会社としても望ましいことである。電力会社では、22時から6時までの間に使う電力を深夜間電力として契約料金を安くし、需用を歓迎している。

国鉄の電気運転用電力は、化学工場などの電力とともに深夜間電力の大口需用家である。(長岐靖隆)

しんろ 進路 (英) route 列車が進行するに当っては、信号機の信号指示にしたがうのであるが、この信号は一定の区域内の安全を保証しているものであって、この保証区域を信号機に対する進路という。列車が運転するに当っては、その運転する区域に他の列車または車両が存在していると衝突するおそれを生じるので、その区域は信号と閉そく方式によって安全を保証されるが、このような区域を列車の進路という。(三和達忠)

す

すいい 水位 (英)water level (独)Wasserstand (仏)niveau déau 水面のある標準水面に対する相対的高さ。現在土地の標高の基準は、東京湾中等潮位(豊岸島量水標において、明治6・6・10から、同12・12・31までの期間に観測した水位の平均高で、年々さ少の変化があり、修正量が発表される)である

が、河川工事においては、これとはべつに独特の基準をもちいている。

河川の流水は常に変化しており、水位を実測するには量水標を用いるが、連続する水位変化と時間との関係を知るには、自記水位計を用いる。